

「夢をあきらめない」

北京パラ新野さん豊田中で講演

磐田市立豊田中は23日、北京パラリンピックのクラスに出場した新野

正仁さん(60)と市加茂の講演会を同校で開いた。



マラソンへの情熱を語った新野さん(右)と伴走者の杉浦さん。磐田市立豊田中

同校は東京五輪・パラリンピック組織委員会の教育事業「東京2020教育プログラム」の実施校として認定を受け、今回が同プログラム初の取り組み。全校生徒ら約400人が、東京パラリン

ピックに向け今も練習を続ける新野さんのチャレンジ精神を学んだ。

新野さんは20歳の時に交通事故で失明し、40代からマラソンを始めて北京パラリンピック出場に至った自身の経験を語った。視覚障害者のランナーはレースや練習で伴走者と共に走ると説明し、「周

囲の人に助けられて一年一年を過ごしてきた」と述べた。

今年12月に山口県で

東京パラリンピックに向けた選考レースに臨む予定で、「3時間を切ることが目標。練習を重ね、あきらめずに頑張りたい」と意欲を語った。

新野さんの伴走者を務める磐田市体育協会職員の杉浦直さん(26)も伴走者の役割を紹介し、相手の立場に立って考えることの大切さを生徒に伝えた。

(磐田支局・高松勝)